

優秀賞 東日本大震災復興応援企画JASRACエッセイコンテスト

「あの日からも、二人を繋ぐ曲」

佐藤そのみ

G, D, G, Am7, G, A, Dsus4, D. 柔らかい音を出すギターの弦。BUMP OF CHICKENの「花の名」のイントロである。もう聴き慣れた曲だ

でも、その音の発信源は、ウォークマンのイヤフォンでもなく、ラジカセでもなく、居間の隣にある妹のみずほの部屋だった。みずほ本人が、父のアコギで「花の名」を弾いていたのである。耳を疑った。うまい。まだギターを始めて半年も経ってないのに、確実にうまくなっている。なんだよ、私のマネで始めたクセに。なんだか悔しくなって、「すげえじゃん」なんて褒めることさえしなかった。「タブ譜の読み方教えてー」と言われても、「みずほにはまだ早い」と冷たくあしらった。何かと私のマネをしてはいつも上を行くみずほが、煩わしくて、それと同時に羨ましくもあった。

これが、3月10日のことである。みずほのギターを聴くのは、この日が最後になった。

母と大川小中学校に向かう途中で「みずほちゃん、上がったみたいだよ」と知らされたのは、3月13日。それから毎日、寒さの中、家族で安置所に通ってみずほの帰りを待った。安置所にはいるのに、なかなか帰してもらえない。早く帰って来てよ。早くみずほ帰してよ。なんで帰って来ないの? …ああ、そっか。ごめん、ちゃんとタブ譜教えてやんなかったからだ。いつも冷たくしてたからだ。

「今日もダメか」と帰宅した後の夜。家族みんなが寝静まった後、電池残量が無事だったウォークマンで、ひとりきりで音楽を聴いた。全曲シャッフルで偶然行きついた、BUMP OF CHICKENの「花の名」。

思えばみずほは、ギターだけじゃなくて、聴く音楽も、私のマネばかりだった。私がバンドの音楽にハマって、「今はJ-POPじゃなくてJ-ROCKの時代だよ」なんて言うと、それを鵜呑みにして、私が聴くバンドばかり好きになろうと必死だったみずほ。

震災から5日後、家に帰って来たみずほの側で、私はみずほの使っていたエレキギターを鳴らした。BUMP、チャットモンチー、アジカン。それから、みずほとふざけて作ったオリジナル曲。長い木の箱の中に寝ているみずほの口元が、ちょっとだけ緩んでいるように見えた。「花の名」も聴かせてあげた。

一緒に見た空を忘れても 一緒にいた事は忘れない

震災から一週間後、みずほの卒業式だったはずの日は、火葬になってしまった。

その日の深夜、みずほの部屋のアコギが、勝手に音を出した。「G」の音だった。

中学校弁論大会石巻地区審査員特別賞



「今だから守りたい」

佐藤そのみさん

大川中3年

「今」のうちに家族や友達に優しくしなさい。後で失った時に後悔する。この考えは、今年の一月からから、私の頭の中に唐突に浮かんで来たら。なんの意識もしていなかった。この言葉は毎晩の夢の中に頭に連呼を繰り返して来た。

しかし、3月11日、そんな瞬間や小説みたいな出来事が起きたのです。想像もしなかった大震災。震災から2日後、大川小中学校に向かう途中で寒さを知らされた時、寒さを知ら、安置所で妹を待つた時も、5日後に妹が「ただいま」も言

わすれなかった時、これが現実で起きている。ことごとくは認めたくありませんでした。こんな夢だ、夢じやなくておかしい。疲わり果てた大川の光景を目にして、そして妹を失ってこれを実感し、信じ続ける自分自身に、しだいに耐えられなくなっていました。私が守りたかったものが、それは「バランス」でした。当たり前な目々々々の中にいる自分、この一つのバランスを自分で、そして妹部活動でみんなのプレーを眺めるのが楽しくて、放課後は自転車小屋でたわいもない会話をして、家に帰れば妹とギターで遊んで。こんな当たり前の生活が、一つが欠けたら、同じようなバランスは保たれていなくなってしまう。私は、この大切なバランスを壊して、自分自身に、他の誰かが、私の中に自分が分かってきたよんな気がしました。何をしても成立するバランスに甘えながら生きていたのだと思っていました。いつもの自分を、ついでに精いっぱい、を思い出しました。一日一日が少しくなると、二度と同じくはやってきません。だから「今」を大事に生きていこうと思つた。大切な時間や大切にしたいこと。それに、自分に無気力で、うつろいも、行き詰りも、どろりかくなる。あるボランティアの大学生さんは、私に「なんことを言ってるんだ、いい人生活だ、いい人生活だ、だが悪い人生活だ、分かるのは、本気で期した時なんだから、ちっぽけな、いい悪いに悩まないで、とりあえず一番先に大事にできるものは「今」なんだよ。」